PART1　形容詞・形容動詞

形容詞

性質や**状態**を表し、終止形が「**〜し**」となる。

★**活用の種類**＝二種類

「**ク活用・シク活用**」

※**見分け方**＝「**なる**」をつける。「〜**く**なる」＝**ク**活用、「〜**しく**なる」＝**シク**活用。

活用の種類	基本形	語幹	未然形		連用形		終止形		連体形		已然形		命令形	
ク活用	白し	白		から		かり		○		かる		○		かれ
シク活用	をかし	をか	しく	しから	しく	しかり	し	○	しき	しかる	しけれ	○	○	しかれ

※「　　」には、**下に助動詞**がつく。

★**語幹用法**→「訳し方」を覚える

○ **和歌中** A（**を**）B**み** ＝ 「**AがBなので**」 （例）瀬をはやみ＝川瀬の流れが速いので

○ **あな**（「**あら**」もしくは「**単独**」）、語幹。＝「**ああ、〜。**」（例）あな、かま＝（ああ、やかましい。→）しぃっ、静かに。

形容動詞

性質や**状態**を表し、終止形が「**〜なり**」「**〜たり**」となる。

★**活用の種類**＝二種類

「**ナリ活用・タリ活用**」

活用の種類	基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
ナリ活用	静かなり	静か	なら	なり　/	なり	なる	なれ	なれ
タリ活用	堂々たり	堂々	たら	たり　/	たり	たる	たれ	たれ

※ 連用形「　・　」には、**下に助動詞**がつく。

音便

【形容詞】

○イ音便　「き」→「い」　（例）白**き**花→白**い**花

○ウ音便　「く」→「う」　（例）苦し**く**て→苦し**う**て

○撥音便　「か＋ラ変」の連体形活用語尾「かる・しか**る**」＋**推定**の助動詞（「なり・めり」など）→「か**ん**・しか**ん**」

※この「ん」は省略されやすい。

（例）白か**る**なり→白か**ん**なり→白かなり

【形容動詞】

○撥音便　連体形活用語尾「な**る**」＋**推定**の助動詞（「なり・めり」など）→「な**ん**」

※この「ん」は省略されやすい。

（例）静かな**る**めり→静かな**ん**めり→静かなめり

〈Memo〉

第３講　PART１　確認問題

①　次の傍線部には誤りがある。正しい形にしたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

明け暮るるも、静心（しづごころ）なくほどに、辛うじて待ちつけて、…

ア　なし　　イ　なき　　ウ　なけれ　　エ　なく

②　傍線部を現代語訳した時、「干潟が無くなるので」となる空欄ａ・ｂの組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

若の浦に　潮（しほ）満ち来れば　潟（かた）［ａ］無［ｂ］　葦辺（あしへ）をさして　鶴（たづ）鳴き渡る

ア　ａ＝を・ｂ＝み
イ　ａ＝を・ｂ＝し
ウ　ａ＝が・ｂ＝み
エ　ａ＝に・ｂ＝き

③　傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

いで、あな幼や。いふかひなうものしたまふかな。

ア　きっと子どもっぽいに違いないよ
イ　あんな子どもがいるだろうか
ウ　子どもだ
エ　まあ子どもっぽいことよ

④　傍線部の活用形として最も適当なものを、次の中から選べ。

はかなげに鳴く、いみじうあはれなり。

ア　連体形　　イ　連用形　　ウ　未然形　　エ　終止形

⑤　空欄には形容動詞「確かなり」が入る。その活用した形として最も適当なものを、次の中から選べ。

山伏のたよりにことづて申したりし人の御もとより、□便(びん)につけて、ありし御返ごととおぼしくて、…

ア　確かなら　　イ　確かなり　　ウ　確かなる　　エ　確かなれ

第３講　PART１　確認問題　解答

〔解説〕

① 傍線部の下は、時間や程度を示す名詞「ほど」である。体言に接続するので、活用形は連体形である。よって、イが正解。

② 形容詞の語幹用法は「訳し方」を覚える。「AをBみ」＝「AがBなので」。よって、アが正解。

③ 形容詞の語幹用法は「訳し方」を覚える。「あな（「あら」もしくは「単独」）、語幹。」＝「ああ、～ことよ。」である。よって、エが正解。

④ 傍線部の下は、カ行四段活用動詞「鳴く」であるので、活用形は連用形である。よって、イが正解。

⑤ 空欄の下は、名詞「便（びん）」である。体言に接続するので、活用形は連体形である。よって、ウが正解。

〔解答〕

① イ　② ア　③ エ　④ イ　⑤ ウ